

中澤省一郎のSS経営メールマガジン No.101

(配信は不定期です。できる限り月1回以上は配信します)

TGの中間決算：CFは実は大赤字 ⇒ 業界再編加速へ

次の業界再編の主役の東燃ゼネラル（以下TG）の中間決算説明会が先週14日（金）に開催され、原油が\$40割れ寸前の6年振りの安値に係らず、併せて業績の上方修正も公表されました。

<中澤のコメント>

- 元売り関係者の間では、私が8月6日開催した**SS経営セミナーのレジメ**が出回っているようです。
- 著作権は私にあり、**コピー禁止**になっていますので、必要な方は、お申し出ください。現状では、CD-ROMと資料のセット販売ですが、資料だけの販売も検討します -
- 私のセミナーが「内部情報」に基づいており「犯人捜し」が行われていると聞いています。しかしながら、ほぼすべての情報は公表されている資料を分析して得られる結果のみをセミナー・メルマガで使用しています。**内部からの情報提供者は存在しません**ので、心配無用です。（ブランド料の年額**TG170億円**、**昭シェル30億円**は、伝聞情報で、未確認です）

<実はCF（キャッシュフロー）は大赤字△350億円です>

- TGのHPにある決算説明会資料P17に**CF**が記載されています。
1-6月期では**697億円**ですが、その内、**620億円が未払揮発油税**によるものです。7月27日配信の**メルマガNo.96に未払揮発油税のカラクリ**が記載されていますので、一読してください。
- 未払揮発油税を除くと、**CFは77億円、配当69億円を除くとわずか8億円**しか残りません。
一方、P7に記載されているように、**在庫数量は90万6千KL減**ってます。
原油価格\$55とすると、約40円/Lですので、**仕入れを約360億円減**らしています。
備蓄原油等は70日分が義務付けられていますので、永遠に在庫を減らすことは出来ません。
- 仮に、在庫を前期並みにしたとすると、**CFは77億円 △ 配当69億円 △ 360億円 = △352億円**の大きなマイナスです。

<4-6月期に計上した在庫評価益229億円。7-12月期では同額の在庫評価損△229億円>

- 実に、1-6月期の**純利益233億円**のほぼ全額**229億円**が、4-6の在庫評価益で、かつ、7-12では、同額の在庫評価損が予想されています。それも、想定原油**\$55**を前提にしてです。
- 現状では、**\$40割れ**も視野に入ってます。この在庫評価損は何処まで拡大するのでしょうか？
本当に黒字になるのでしょうか？
まさかの2期連続赤字か？
繰延税金資産が心配です。
- そして、「**在庫を減らして高配当維持**」は何時まで続けられるのでしょうか？

<ビックリ。下期に在庫評価損△229億円：でも60億円の上方修正！です>

- **60億円**はまたしても**KPI**合併の「税効果資産」の積み増しです。税効果資産は赤字や利益が大きく減少すると取り崩されます。
- TGの仕切りは、7月以降、平均して2円弱安くなっていると思います。にもかかわらず、7-9の石油事業は**50億円**の増益です。石油化学は、「**マージンが圧縮**」でも**100億円**の増益です。
- 私の常識では計り知れない「ビックリ」が続きます。

中澤の感想：「**TGが主役の業界再編は想像以上に早まると思います**」

SSへの労働基準局のがさ入れ

関東近県で、多数の大手石油販売業者に労働基準局の調査が入ったようです。

メインの調査項目は「残業代の支払い」ではないかと推測しています。

- 大手特約店からPBへ多数のマネージャー等が移籍し、その際の残業代の未払（いわゆるサービス残業）で、労働基準局に相談に行ったのが端緒ではと想像しています。
- マネージャー等は、会社は「管理職」として「残業代」を払わない。但し、形式的管理職、実質的には従業員の方々には、残業代の支払い義務が生じます。
- 管理職か否かは、「一定の権限が与えられているかどうか？」です。ほとんどのSSの店長（マネージャー）は「形式管理職・実質従業員」が多いと思います。
- ほとんどの店長（マネージャー）は、残業代の支払い対象ではないかと想像しています。
- SSの人手不足が顕在化しています。一方で、マイナンバー制度の導入で、「アルバイトしたくてもできない学生・主婦・サラリーマン等」が大幅に出現すると予想されますので、残業代を含めた労務管理がSSの生残りには不可欠であると思っています。